

主催：京都大学オープンイノベーション機構

共催：京都大学医学研究科「医学領域」産学連携推進機構(KUMBL) 協賛：バイエル薬品(株)

京大を デジタルヘルス研究助成報告ウェビナー

デジタルヘルスの

メッカにしよう

Digital health for new lifestyle normals

2020年5月20日(水)14:00-16:00

ウェビナーライブ配信・無料(事前登録制)

使用言語：日本語

参加登録



https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_bLUFIAdBT_Otla5Uq4XApQ



- ・ウェビナー配信数に限りがあるため、先着順で受け付けます。応募総数次第でお断りさせていただく場合があることをあらかじめご了承ください。
- ・フリーアドレスからの登録はご遠慮ください。
- ・今回のウェビナーへの参加は、法人に所属されている方に限らせていただきます。

京都大学オープンイノベーション機構は、京都大学におけるデジタルヘルス領域の研究を活性化し、社会実装に繋げるための支援を含めた研究助成公募(KUMBL共催、バイエル薬品(株)協賛)を昨年12月に行いました。この度、応募課題の中から採択課題及びデジタルヘルス研究奨励賞受賞課題の研究をご発表いただきます。デジタルヘルス領域のビジネスに興味のある企業様や、本研究分野に関心をお持ちの研究者の皆様の聴講をお待ちしております。

- 14:00-14:05 開会挨拶
林 善夫 オープンイノベーション機構 統括クリエイティブ・マネージャー
- 14:05-14:10 主旨及びアジェンダの説明
鈴木 忍 京都大学オープンイノベーション機構 プロジェクトクリエイティブ・マネージャー
- 14:10-14:35 デジタルヘルス研究への課題と期待
黒田 知宏 京都大学大学院 医学部附属病院 医療情報企画部 教授
デジタルヘルス研究助成公募 評価委員
- 14:35-14:40 採択課題表彰式
- 14:40-14:55 「採択課題」プレゼンテーション
婦人科がん患者に対するモバイルアプリケーションを用いたがんヘルスケア管理
山口 建 京都大学大学院 医学研究科 婦人科学産科学 講師
- 15:00-15:50 「デジタルヘルス研究助成奨励賞課題」プレゼンテーション
認知症発症の早期発見・検知に資する評価尺度と聴力検査機器の開発
岡野 高之 京都大学大学院 医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師
スマートフォンを用いた遠隔ICシステム構築
沼 尚吾 京都大学大学院 医学研究科 眼科学教室
月経前症候群の診断支援、治療サポートアプリの開発
池田 裕美枝 京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野
ICTを活用した在宅心不全患者に対する包括的デジタルヘルスケアシステムの開発
山本 絵里香 京都大学大学院 医学研究科 循環器内科学
「健康行動科学」・「行動経済学」に基づく、薬局での生活改善支援ITプログラムの開発
岡田 浩 京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 特定講師
- 15:50-16:00 総括及び閉会挨拶
寺西 豊 京都大学大学院 医学研究科「医学領域」産学連携推進機構 特任教授

お問合せ先



京都大学 オープンイノベーション機構 事務局
E-mail oi-dh@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



採択課題

婦人科がん患者に対するモバイルアプリケーションを用いたがんヘルスケア管理



山口 建 京都大学大学院医学研究科 婦人科学産科学 講師

がん患者にとって治療だけではなく、日常生活の質を維持することは重要です。しかし今の診療では、日常生活の気持ちや生活習慣といったヘルスケア管理を十分にできません。この研究は、ヘルスケアのアプリを用いて日常生活の情報をデジタル化して集めます。このデータをもとに患者の不安や副作用を減らしたり、生活習慣をよくするためのアプリを開発することを目指します。

デジタルヘルス研究助成奨励賞受賞課題

認知症発症の早期発見・検知に資する評価尺度と聴力検査機器の開発



岡野 高之 京都大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師

難聴と認知症の関連が注目されており、我々はこれまでに難聴者にも使用可能な新しい認知機能評価尺度ReaCT Kyotoを開発した。本研究ではReaCT Kyotoをタブレット端末上のアプリとして開発する。加えて加齢性難聴と早期の認知機能低下を鑑別できる聴力検査法をタブレット端末で実行するアプリとして開発し検証する。

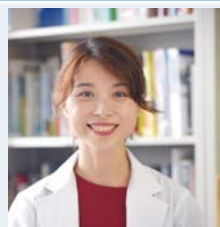
スマートフォンを用いた遠隔ICシステム構築



沼 尚吾 京都大学大学院医学研究科 眼科学教室（共同企画者：奥野 琢也 医学研究科）

従来、病状説明・手術説明に際しては患者そして患者家族の「来院」が必須であった。我々はスマートフォン・タブレットを用いて遠隔で「自宅」や「会社」に居ながらにして説明を聞くことができるサービスを実現化したい。医師の時間外勤務の削減や患者家族の機会損失の軽減の観点から、少子高齢化が進む日本においては必須のシステムであると確信している。

月経前症候群の診断支援、治療サポートアプリの開発



池田 裕美枝 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野

月経前症候群(Premenstrual Syndrome; PMS)とは月経前に現れ月経とともに消失する心身の不快症状です。月経がある女性の3割に中等症以上のPMSがあるにもかかわらず、多くは適切な治療につなげていません。私たちはPMSの診断、治療を支援するスマホアプリを開発したいと考えています。

ICTを活用した在宅心不全患者に対する包括的デジタルヘルスケアシステムの開発



山本 絵里香 京都大学大学院医学研究科 循環器内科学

現在、全世界で心不全患者は増加の一途を辿っている。一般的に心不全患者は入退院を繰り返しながら死に至る。心不全再入院の抑制は、患者のQOL改善のみならず、医療経済学的にも解決すべき喫緊の課題である。本課題では心不全増悪/再入院の予防のための、効率的な在宅セルフモニタリング、セルフケアを可能とするシステム開発を目指す。

「健康行動科学」・「行動経済学」に基づく、薬局での生活改善支援ITプログラムの開発



岡田 浩 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 特定講師

糖尿病などの生活習慣病の治療は、薬物療法に加え健康的な生活習慣を生涯維持することが求められる。薬局薬剤師は患者から生活習慣の相談を受けるものの、必要な知識やスキルを学ぶ機会は多くない。そこで今回、薬剤師がエビデンスと「行動科学」を、業務を行いながら学べ、患者の行動変容を促すITプログラムを開発する。